2019年3月期 第3四半期
決算説明資料

1）決算概要
2）決算のポイント
3）商品群別売上高
4）国内売上高
5）海外売上高
6）トピックス
7）減価償却費と研究開発費
8）通期業績見通し
［参考］商品群別売上高見通し/
為替の影響

日本光電工業株式会社
銘柄コード：6849

2019年2月4日

Fighting Disease with Electronics
NIHON KOHDEN

Ⓒ Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

1）決算概要

（単位：百万円、単位未満切捨て）

	2018/3 第3四半期 累計	2019/3 第3四半期 累計	増減率（%）
売上高	117,456	120,227	2.4
国内売上高	86,766	87,568	0.9
海外売上高	30,689	32,659	6.4
売上総利益（売上総利益率）	56,530 48.1%	58,627 48.8%	3.7
営業利益（営業利益率）	6,041 5.1%	6,365 5.3%	5.4
経常利益	6,981	7,143	2.3
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,262	4,986	17.0

平均レート	(2017/12)	(2018/12)
1米ドル	111.6円	110.7円
1ユーロ	128.8円	129.4円

為替影響除く：＋7%

自社品売上比率：2018/3 Q3 63.2% → 2019/3 Q3 64.0%

販管費率：43.0% → 43.5%

為替差益：4.6億円 → 1.9億円

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

- 売上高は2.4%増の1,202億円となりました。
- 国内売上高は、市場別の取り組みを強化し、消耗品・保守サービスに注力した結果、0.9%増の875億円となりました。
- 海外売上高は、6.4%増の326億円、現地通貨ベースでは、7%増加しました。米州、アジア州の伸びが高く、特に米国、中南米、中国が好調に推移しました。
- 粗利率は、富岡生産センタ、上海光電でコストダウンに取り組んだこと、自社品販売の注力により商品ミックスが良化したことから、0.7%ポイント上昇しました。このため、営業利益は5.4%増の63億円となりました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

2）決算のポイント

売上高：前年同期比 2.4%増

・国内：市場別の取り組みを強化し、消耗品・保守サービス事業の拡大に注力した結果、売上が伸長。
・海外：米州、アジア州が成長をけん引。

営業利益：前年同期比 5.4%増

・増収効果、粗利率の改善で販管費の増加を吸収し、増益。
・粗利率は、生産コストの低減と商品ミックスの良化により0.7%ポイント上昇。

純利益：前年同期比 17.0%増

・前年同期における米国税制改正に伴う繰延税金資産の取り崩しの影響もあり、二桁増益。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

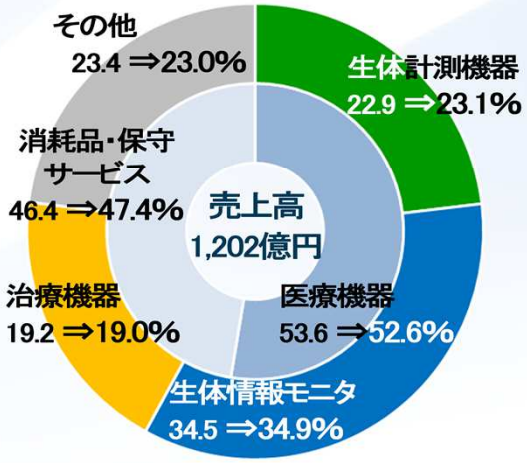
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

3）商品群別売上高

（単位：百万円）

	2018/3 第3四半期 累計	2019/3 第3四半期 累計	増減率（%）
生体計測機器	26,859	27,776	3.4
生体情報モニタ	40,559	41,933	3.4
治療機器	22,497	22,894	1.8
その他	27,539	27,624	0.3
売上高合計	117,456	120,227	2.4
（ご参考）			
消耗品・保守サービス	54,485	56,956	4.5

商品群別売上構成比
（2017/12 ⇒ 2018/12）



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved
NIHON KOHDEN

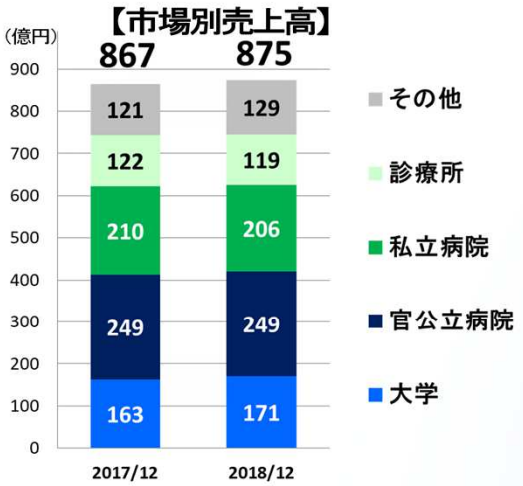
- 生体計測機器は前期比3.4%増の277億円、
  生体情報モニタは3.4%増の419億円、
  治療機器は1.8%増の228億円、
  その他は0.3%増の276億円となりました。

- 消耗品・保守サービスも堅調に推移し、売上構成比率は47.4%に上昇しました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

4）国内売上高

【市場別売上高】



【商品群別売上高】

（単位：百万円）

	2018/3 第3四半期 累計	2019/3 第3四半期 累計	増減率（%）
生体計測機器	21,442	21,789	1.6
生体情報モニタ	25,680	25,567	△ 0.4
治療機器	15,683	15,916	1.5
その他	23,961	24,294	1.4
売上高合計	86,766	87,568	0.9

【市場別】 その他に含まれるPAD市場※が好調に推移し、大学病院市場も堅調に推移。私立病院、診療所市場は前年同期を下回る。

【商品群別】 生体計測機器: 診断情報システム、心臓カテーテル検査装置群が好調に推移。脳神経系群、心電計群は前年同期を下回る。

生体情報モニタ: ベッドサイドモニタが新製品の生産・出荷の遅れにより減収。消耗品、臨床情報システムは堅調に推移。

治療機器: AED、人工呼吸器が好調に推移。ペースメーカ・ICDは前年同期を下回る。

その他: 全自動血球計数・免疫反応測定装置の新製品効果が寄与。医療機器の設置工事、保守サービスも好調。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

※PAD（Public Access Defibrillation）：一般市民によるAEDを用いた除細動。PAD市場には公共施設や学校、民間企業などが含まれる。

- 国内売上高は8億円増の875億円となりました。

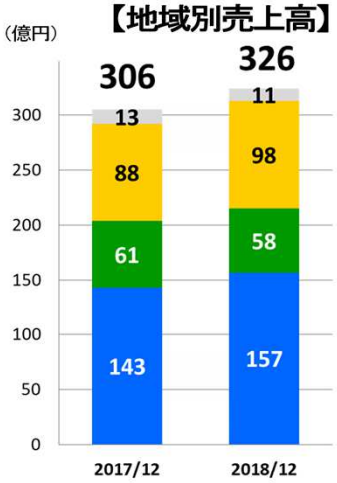
- その他に含まれるPAD市場が好調だったほか、大学病院市場も堅調に推移しました。官公立病院市場は前期並み、私立病院、診療所市場は前期を下回りました。
- 第3四半期の会計期間では、大学、官公立病院市場は前期を下回りましたが、前期は正月稼働を希望される病院が多かったことが影響しています。今期は、例年どおり年度末納品のご希望が多く、第4四半期に大口商談が集中する見通しです。診療所市場は、新製品の血球計数器が非常に好評で、第3四半期に入って売上が回復しています。

- 生体計測機器では、更新商談が増え、診断情報システムが好調に推移しました。心臓カテーテル検査装置群も好調でしたが、脳神経系群、心電計群は前期を下回りました。
- 生体情報モニタは前期並みにとどまりました。消耗品、臨床情報システムは堅調でしたが、ベッドサイドモニタは新製品の生産・出荷の遅れが影響し、減収となりました。
- 治療機器では、AED、人工呼吸器が好調に推移しました。一方、ペースメーカ・ICDは販売数量は伸ばしたものの、償還価格の影響を受け、減収となりました。
- その他では、診療所向けの血球計数器が売上に寄与したほか、医療機器の設置工事、保守サービスも好調でした。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

5）海外売上高

【地域別売上高】



- その他 ：前年同期比 △15%（為替影響除く：△15%）
- アジア州 ：前年同期比 ＋11%（為替影響除く：＋11%）
- 欧州 ：前年同期比 △4%（為替影響除く：△4%）
- 米州 ：前年同期比 ＋10%（為替影響除く：＋11%）

【海外売上高比率】

2018/3 第3四半期累計	2019/3 第3四半期累計
26.1%	27.2%

【商品群別売上高】 （単位：百万円）

	2018/3 第3四半期累計	2019/3 第3四半期累計	増減率（%）
生体計測機器	5,417	5,986	10.5
生体情報モニタ	14,879	16,365	10.0
治療機器	6,814	6,978	2.4
その他	3,578	3,329	△ 7.0
売上高合計	30,689	32,659	6.4

為替影響除く：＋7%

【地域別】 **米州**: 米国では、生体情報モニタ、脳神経系群が好調に推移。中南米は、ブラジル、メキシコを中心に大幅に伸長。
欧州: ドイツ、イタリアは好調に推移した一方、ロシア、トルコが低調。
アジア州: 中国、タイが好調に推移したほか、カタールでの大口商談の受注も寄与。
【商品群別】 **生体計測機器**: 脳神経系群は米州、心電計群はアジア州で好調に推移。
生体情報モニタ: 米州、アジア州で二桁成長。
治療機器: 除細動器は米州、アジア州で好調に推移。AEDはアジア州で好調に推移した一方、米州で前年同期を下回る。
その他: 現地仕入品が前年同期を下回る。血球計数器は中南米、アジア州で好調に推移。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved NIHON KOHDEN

- 海外売上高は20億円増の326億円、現地通貨ベースでは7%増加しました。海外売上高比率は27.2%となりました。

- 米州では、米国は生体情報モニタが好調に推移したほか、営業チームを立て直した結果、脳神経系群も売上を伸ばしました。中南米は、現地販売・サービス体制の強化を進めるブラジル、メキシコを中心に好調に推移しました。

- 欧州では、ドイツ、イタリアは好調に推移しましたが、ロシアは前期ほど政府予算がつかず、また、トルコは通貨安の影響で、低調に推移しました。

- アジア州では、中国、タイが好調に推移し、カタールでの大口商談も寄与しました。中国はCFDA承認による新製品効果もあり、すべての商品群が好調に推移し、現地通貨ベース、円ベースともに二桁の増収となりました。中国は12月決算であり、通期計画を達成し、10%増収を見込んでいます。カタールでは、国立のハマド医療法人で約2億円のモニタ商談を受注することができました。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

6）トピックス

第3四半期の主な新製品

治療機器

日本初

一般家庭向け 自動体外式除細動器 AED-3101

国内: 2018年12月発売

- 日本初の一般家庭向けAED
- 家庭へのAED普及、救命率向上を目指す※1
- 無線LAN通信機能で取り出した救助データを、医療機関等へ迅速に提供可能
- バイリンガルの音声ガイド（日英）
- 「セコム・MyAED」サービス専用

※1
日本では年間約7万人が心臓突然死で亡くなっており、そのうち70%以上が自宅で発生
（出所：総務省消防庁 平成30年版救急・救助の現況、Resuscitation 2006; 69 221-228）

検体検査装置

日本初

全自動血球計数・免疫反応測定装置 MEK-1303用＋HbA1cライセンス

国内: 2018年12月発売

- CBC、CRP、HbA1c検査に1台で対応できる日本初のPOCT製品※2
- 開業医における感染症・生活習慣病の検査に対応
- 採血管のキャップを取らずに測定でき、血液感染リスクを低減

※2
CBC（Complete Blood Count：全血球計算値）
CRP（C-Reactive Protein：C反応性蛋白）
HbA1c（ヘモグロビンA1c）
POCT（Point of Care Testing：診療の現場で行う検査）

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved
NIHON KOHDEN

- 12月に、日本初となる一般家庭向けAEDを発売しました。心臓発作は自宅で起きる場合が多いため、家庭でのAEDの普及を目指して、本製品を開発しました。AEDを使用した時には、無線LAN通信で取り出した、心電図や電気ショック等の救助データを迅速に医療機関へ提供することが出来ます。提携先のセコム社がレンタルで提供し、オンラインでAEDの状態を管理してサポートします。

- 昨年6月に、一体型の全自動血球計数・免疫反応測定装置を発売しましたが、12月にHbA1cが測定できるオプションを発売しました。こちらも日本初のCBC、CRP、HbA1cの検査に1台で対応できる製品です。このMEK-1303は、採血管のキャップを取らずに測定でき、感染リスクを低減できることが、好評をいただいており、診療所市場での売上に貢献しています。今回のオプションで付加価値を高め、診療所へのさらなる普及に努めます。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

7）減価償却費と研究開発費

（単位：百万円）

	2018/3 第3四半期累計	2019/3 第3四半期累計	増減額	2018/3 前期実績	2019/3 予想 期初	2019/3 予想 11月2日修正
減価償却費	2,417	2,550	132	3,338	3,900	3,800
研究開発費	5,598	5,459	△ 139	7,226	8,500	8,000
設備投資額				3,430	4,000	3,900

【2019/3期 設備投資計画】
新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、基幹システムのサーバ更新

【2018年・2019年新製品（予定）】

【期初計画と11/2修正計画との差異】
・研究開発費　△5億円
・維持・改良費※　＋5億円

※市場投入後新製品の機能追加・改良に係る開発費用

※CSM-1500/1700：国内、欧州、新興国は発売済
米国は連邦政府機関の一部閉鎖
により、承認プロセスに遅れ
MEK-1303、AED-3101、EEG-1260/1290は国内発売済
他は2019年発売予定

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved
NIHON KOHDEN

- 減価償却費は前期比1億円増の25億円、研究開発費は1億円減の54億円となりました。通期の減価償却費は38億円、設備投資は39億円で変更ございません。

- 研究開発費は80億円を若干下振れる一方、維持改良費は上振れる見込みであり、販管費全体では計画内となる見通しです。

- 維持改良費につきましては、昨年発売した中位機種ベッドサイドモニタの機能追加や更新需要が見込まれる臨床情報システムのバージョンアップにかかる工数を見込んでいます。

- 新製品の発売時期ですが、新興国向けベッドサイドモニタ、スポットチェックモニタ、人工呼吸器ともに、来年度上期の発売を予定しています。麻酔器については、若干開発が遅れており、来年度発売の予定です。

- 中位機種ベッドサイドモニタ CSM-1500/1700の米国発売につきましては、連邦政府機関の一部閉鎖により、承認プロセスに遅れが生じていましたが、1月末に再開されたため、手続きを進める予定です。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8）通期業績見通し

（単位：百万円）

	2018/3 前期実績	2019/3 当期予想	増減率（%）
売上高	174,249	180,000	3.3
国内売上高	128,144	130,700	2.0
海外売上高	46,105	49,300	6.9
売上総利益 （売上総利益率）	82,759 47.5%	86,800 48.2%	4.9
営業利益 （営業利益率）	14,517 8.3%	15,000 8.3%	3.3
経常利益	14,501	15,000	3.4
親会社株主に帰属する当期純利益	9,154	10,300	12.5
海外売上高比率	26.5%	27.4%	

為替影響除く：＋9%

平均レート（期初の想定）

1米ドル	111.0円	105円
1ユーロ	130.0円	130円

【地域別海外売上高】

	2018/3 前期実績	2019/3 期初	2019/3 11月2日修正	増減率（%）
米州	22,000	23,400	23,600	7.3
欧州	8,462	9,100	8,600	1.6
アジア州	13,634	14,100	14,600	7.1
その他	2,008	2,700	2,500	24.4
海外計	46,105	49,300	49,300	6.9

※第4四半期の前提為替レートは105円／米ドル、130円／ユーロです。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

- 通期の業績予想については、変更ありません。
- 国内売上高は1,307億円で変更ありません。大口商談が第3四半期に前倒しとなった前期に対し、今期は例年どおり、第4四半期に集中する見通しです。大学、官公立病院での更新需要を着実に捉えるとともに、ベッドサイドモニタ、血球計数器などの新製品の拡販に努め、通期計画の達成を目指します。
- 海外売上高についても493億円で変更ありません。米州は概ね計画どおりを見込んでいます。米国では、生体情報モニタ、脳神経系群の受注が好調に推移しており、計画どおりを見込んでいます。中南米は、計画を若干下振れる見通しです。欧州は第4四半期は新製品のベッドサイドモニタの拡販により回復を見込んでいますが、第3四半期までの不足をカバーできず、計画を下振れる見通しです。一方、アジア州は、中国、東南アジアが好調で、インド、中近東も回復基調にあるため、計画を上振れる見通しです。
- 利益については、営業利益150億円、経常利益150億円、純利益103億円で変更ありません。
- 粗利率については、3ヵ月の会計期間では、ペースメーカなど導入品の償還価格引き下げの影響を自社品の粗利率改善でカバーできず、前年同期を下回りましたが、通期見通し48.2%に変更はありません。引き続き、生産コストの低減、自社品販売に注力し、改善に努めます。
- 国内・海外ともに3月に売上が集中しますが、生産・納品対応を万全な体制で臨み、売上、利益の達成に努めます。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

［参考］商品群別売上高見通し／為替の影響

（単位：百万円）

	2018/3 前期実績	2019/3 予想 期初	2019/3 予想 11月2日修正	2019/3 予想 構成比（%）	増減率（%）
生体計測機器	39,323	40,200	40,500	22.5	3.0
生体情報モニタ	59,229	62,500	62,800	34.9	6.0
治療機器	32,892	33,600	33,400	18.6	1.5
その他	42,804	43,700	43,300	24.0	1.2
売上高合計	174,249	180,000	180,000	100.0	3.3
（ご参考）					
消耗品・保守サービス	75,505	78,100	78,200	43.4	3.6

為替感応度の概算値（年間）

	売上高	営業利益
米ドル	3.0億円	1.1億円
ユーロ	0.5億円	0.2億円

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

- 通期の商品群別の売上高予想につきましても、変更ございません。

- 国内では、中位機種ベッドサイドモニタ CSM-1500シリーズを昨年3月、CSM-1700シリーズを8月に発売しました。このCSM-1700シリーズの品質を確保するため、10月、11月の生産・出荷を一旦停止し、12月に再開しました。供給が間に合わず12月の業績に若干の影響が出たと見ています。供給遅れは1月に解消しており、通期の業績に影響はございません。

- 国内では、第4四半期に大学・官公立病院の予算執行が集中しているため、積極的に新製品を提案し、ベッドサイドモニタや臨床情報システムの更新商談の受注に努めます。海外は引き続き堅調に推移すると予想しており、生体情報モニタ628億円の達成は可能と見ています。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。
同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。
従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略部
【連 絡 先】TEL03-5996-8003

NIHON KOHDEN

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved